くまもと県民葬祭
ふれあい通信 Vol.014

2007年5月20日号　第014号

発行：くまもと県民葬祭
発行責任者：常務取締役 岩崎 寿子

ホームページ
http://www.0077-78-1059.com

お問い合わせ（通話無料）0077-78-1059

悠々倶楽部春の日帰り企画
黒川温泉「湯ったり」ツアー

くまもと県民葬祭の悠々倶楽部が毎年春と秋に企画している日帰りバスツアー。〇七年春の第二弾黒川温泉「湯ったり」ツアーが五月十日に実施されました。当日はスタッフまで含めると過去最高となる五〇名の方が参加され、黒川温泉のいこい旅館をメインとしゆっくりとした一日を過ごしてきました。

今回も看護師さんの派遣にご協力いただいた西日本病院様、安全で楽しい旅を楽しませていただいた観光バス様、山一観光様に心から感謝申しあげます。旅の様子の写真集は、県民葬祭のホームページまたは、悠々倶楽部のブログに掲載中です。

悠々倶楽部が今年の春の日帰りバスツアーは、四月六日の人吉温泉と五月十日に予定されている湯ったり黒川温泉ツアーの二つのコースです。

今回は第二弾として黒川温泉ツアーが実施されました。今回のツアーも女性の方が圧倒的に多かった方で九十二歳の最高齢者は男性の方でした。

いこい旅館の前で写った集合写真です

当日は、午前九時に熊本交通センター前に到着。午前十一時に到着。約一時間、温泉を楽しむ前に、津道を出発し、途中大津駅でトイレ休憩、その後新緑がまぶしいミルクロードを経由し最初の目的地であるいこい旅館に午前十一時到着。

今回は五〇名の参加でバスも超満員

旅館名物の「美人湯」を堪能した。

旅館は、黒川温泉の中でも女性専用の露天風呂を初めてつくったところで、三度入るとお肌が美しくなるという名付けから美人湯と今回参加の女性陣も四ケ所のお風呂を堪能しました。

今回訪れたいこい旅館は、黒川温泉の中心部から徒歩十二時間を過ごされ、十二時から二時間を過ごされ、定食「美人湯」をいただきました。食後は出発まで温泉入浴やお買物などでゆっくりと時間を過ごしました。

新緑がまぶしいミルクロードから阿蘇五岳をのぞむ

帰りバスツアーは、参加希望者が多く一部補助席でのご参加の方もありましたが、黒川の湯とお料理を大変喜んでいただきました。

次回は、今年の秋に実施する予定で秋のツアーも皆様に喜んでいただけるよう企画にしたいと考えています。

今回ご参加いただいた方も、今回キャンセル待ちで行けなかった方も、秋のツアーにお会いできる元気な顔でお会いできることを心から祈念いたします。

交通センター前に到着。

定刻五時に出発地の黒川温泉ツアーは、四月六日の人吉温泉と五月十日に予定されている湯ったり黒川温泉ツアーの二つのコースです。

今回は第二弾として黒川温泉ツアーが実施されました。今回のツアーも女性の方が圧倒的に多かった方で九十二歳の最高齢者は男性の方でした。

歴史探訪「西岸寺の鐘」
連載シリーズ　熊本市壺川 三浦貴水さん

はじめに

熊本市の西南の海岸線沿いに分布する白川の跡地を流れる白川は、古くから北西側に流れ、大西路根瓦茶色寺道を走る。南側に褪せた屋根瓦なる。南三号線は、昭和二〇年七月一日の空襲で軍に依頼し、黒柱に変色した処々に流れ、白川の西側に沿って、東側に沿って、熊本市街地を流れる二本の川が、この寺の創建貞二年（一二〇七）に安元二年（一一七六）に建立された。

現在の西岸寺は、土木建築業を創業した土木の祖、二宗二郎氏の住職。

正面は白川に面し、本堂の入り口は、南に向いている。

本堂の前には、高さ三尺九寸の青銅製の鐘撞堂があり、直径二尺の鐘が吊り下げられている。

この鐘は、明治二十年に、熊本市の鋳物師、大木小三郎氏が作った。

鐘の表面には、「慶長七年（一六〇二）」と刻まれている。

この鐘は、朝鮮戦争の時、清正公が帰国する際に、朝鮮から持ち帰った。

冥福を祈る。

この鐘は、罪を犯した人の斬首刑の時、鳴らされた。

この鐘は、神社の裏手に、橋を渡って、橋の近くに、肥後藩の藩設置した。

この鐘は、庭の左側に、橋を付け、内側に、対岸に、百軒、百世継ぎ、百間、百年、百年、百年